

大阪カジノは許さない！

9月8日午後、豊中市蛍池で行われた「大阪カジノは許さない！ 9.8 スタート集会」に参加した。会場には100名を超える人が集まった。

集会は第1部「大阪カジノに反対する市民の会」第1回総会から始まった。設立趣意書で「本会は、カジノ反対という市民の常識を大きな政治的な力にまで高めていくことを使命」とすると。会則や活動方針が承認され、代表に西澤信善・神戸大学名誉教授が選出された。先生著『カジノ戦争』を購入したので、またレポートで紹介したい。

第2部は連帯アピール&メッセージ。カジノ誘致に狂奔する苦小牧・小樽・佐世保・常滑・神奈川・和歌山、さらに地元の大阪・泉佐野・豊中など16の団体にのぼった。写真は連帯挨拶をする「カジノ問題を考える大阪ネットワーク」代表の桜田照雄さん。隣は「市民の会」代表に就任した西澤先生。正面机のポスターは「カジノ問題を考える和歌山ネットワーク」が作成したものだ。カジノ反対を訴える斬新なデザインだ。

第3部は全国カジノ賭博場反対連絡協議会事務局長吉田哲也・弁護士による「大阪カジノを阻止する展望」と題した記念講演。パワーポイントによるパワーある講演であり、日本型カジノ、大阪カジノについて示唆に富む指摘が多かった。大阪カジノ設置阻止のための提案として、誘致自治体における住民投票実施を提案されたのが、とりわけ印象に残った。

意見交換のあと、「あったか演劇研究会」山口千英子さんによる「ラップで…百人一首」。「きみがため 夢洲に出でてカジノする わが懐にゆきは降りつつ」などと、参加者も声をあげ、盛況のうちに終わった。

大阪カジノと万博について発言しようかと考えていたが、時間切れになった。帰りに出口で資料集裏にも掲載されていた「名刺」をもらった。私が発言しなかったことでもある。

「IR」という名のカジノ＝賭博の問題点は明らかであり、反対の声の方が多く、国民の理解は得られていない。そのカジノ誘致の先頭を走るのが大阪である。大阪カジノの特徴は、なんといっても、夢洲で開催をめざす2025年万博と一体であることだ。読売新聞7月27日朝刊によれば、大阪カジノが万博へ危うい「切り札」と指摘する。2005年の愛知万博のように、BIE（博覧会国際事務局）などの動向が注目される。大阪カジノに隣接した土地で万博開催をもくろむが、今回の台風でも明らかのように、その夢洲が危ういのである。



(2018年9月12日)